

名前：

二十数年の間に日本の雑誌の発行部数は  
 どんどん少なくなっています。また新聞販売  
 契約数も、特に若年層において低下し続けて  
 います。これらの背景には、インターネット  
 技術の急速な発展・普及があり、この傾向は  
 ますます強まると考えられています。

確かに今、あらゆるニュースはインターネ  
 ット上で即座に、かつ容易に入手することが  
 出来ます。例えば日本最大手であるヤフーの  
 場合、そのトップページに載ったニュースが  
 新聞で取り上げられるのは翌日になってから  
 だと言われています。つまりヤフーは新聞が  
 報じるより一日早くニュースを利用者に提供  
 できる訳です。

また、インターネットの利点として、瞬時  
 に様々な角度からの意見を閲覧出来ることが  
 挙げられます。インターネット上では、利用  
 者から誰でも何らかの形で、自ら情報を発信  
 することが可能です。そのため、一つのニュ  
 ースをとっても、賛成論・反対論、積極論・

消極論のように、あらゆる立場の人間の意見  
 を目にする事が出来る訳です。雑誌・新聞  
 では、何誌・何紙も集めなければ、このよう  
 な事は困難です。

しかし、雑誌・新聞にもインターネットに  
 ない長所があります。インターネットに比べ  
 て匿名率が低いこと（つまり誰がその記事に  
 責任を持つのか判りやすい）、情報格差を  
 生じさせにくいこと（インターネットを使え  
 ない、特に高齢層に対応できる）などです。  
 また、サーバーのダウンなどのシステムトラ  
 ブルに左右されないという点も重要だと言え  
 ます。

このようにインターネットと、雑誌・新聞  
 はそれぞれ、私達の社会に欠くことが出来な  
 い長所を持っていると言えます。そのため、  
 いかんインターネットがニュース源として定  
 着・発展しようとして、雑誌・新聞は必要とされ  
 続けるでしょうし、無くなってしまおうという  
 ことは有り得ないと、私は考えます。

1800字